

18 世紀末の古楽アカデミー

——サミュエル・アーノルドの指揮者就任の背景に関する一考察——

吉江秀和

1726 年に 16、17 世紀の宗教音楽とマドリガルの復興を掲げて設立された古楽アカデミーは、1780 年代に大きな変革期を迎えた。その時期に古楽アカデミーは、ヘンデル George Frederic Handel (1685-1759) やハイドン Joseph Haydn (1732-1809) から新旧織り交ぜた多様なプログラムを組み、パブリック・コンサートを開催した。その一方、古楽アカデミーは財政難や新旧の運営陣による内部対立といった問題を抱えており、1789 年末に、クック Benjamin Cooke (1734-93) は指揮者を解任され、アーノルド Samuel Arnold (1740-1802) が新たに就任した。しかしながら、これまでの研究では、この交代劇の背景については十分に言及されてこなかった。

本稿は、1780 年代後半以降の古楽アカデミーの運営メンバーを精査することにより、この交代劇や内部対立の背景を解明していくことを試みた。その結果、グリー・クラブの創設者であり、当時の古楽アカデミーの主要ポストを歴任したスミス Robert Smith (1740/1-1810) を中心としたグリー・クラブの複数のメンバーが、アーノルドの指揮者就任前後の時期に、古楽アカデミーの運営の中核にいた事実を突き止めた。したがって、同クラブのメンバーがアーノルドの新指揮者就任に関与した可能性がきわめて高いと判断した。

続いて、古楽アカデミーのコンサート・プログラムの変遷を追い、1780 年代以降のプログラムの大幅な変容から、アーノルドの就任が求められた理由——プログラムの変化に伴うクック主導の限界の露呈と新しい世代の会員や運営陣の従来の「古楽」に対する情熱の低下——を導き出した。そして、この交代劇が単なる人事問題ではなく、他のコンサート団体の影響による「古楽」受容の認識の推移にともなう、古楽アカデミー内の音楽嗜好の変化にあると考え、アーノルド就任の意義を読み解いた。